

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191200054		
法人名	株式会社 GAKUSAN		
事業所名	グループホーム のりこハウス		
所在地	北海道恵庭市駒場町6丁目1番1号		
自己評価作成日	令和5年2月24日	評価結果市町村受理日	令和5年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0191200054-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームのりこハウスは、1ユニットで9名の定員で認知症の方が入居できる施設です。平成22年3月に開設してから間もなく13年が経ちます。小規模多機能施設が併設されており、『医療・福祉・介護の連携を図り、人々の心を支えます。人の辛さを思いやり、慈愛の気持ちをもって地域に役立つことを目指します』を共同の理念として理念の実現に向けて実践しております。系列法人との密な連携により、住み慣れた地(場所)で、その心身状態に応じて最期まで同じスタッフに援助を受けることで暮らせる施設づくりを微力ながら実践し、ご本人、ご家族の意向に沿ってお看取りを行う体制も整っております。新型コロナウイルス感染症による感染拡大防止のため、地域との関り等が減少しておりますが、グループホームの理念『共同で生活する中でも個々の暮らしがあり、楽しみもある暮らしを実現する』と掲げているように個人の思いを1つでも多く叶えられるよう、また、楽しい暮らしを送れるような支援を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恵庭市内の幹線道路沿いにある1ユニットのグループホームである。建物は2階建てで1階は小規模多機能型事業所、2階がグループホームとなっている。室内は共用空間が広く、居間の他に大きなコミュニティルームがある。居間の大きな窓は外の様子を眺めるほか、感染症対策で家族との面会が難しい中、窓越しに顔を合わせるためにも活用されている。運営面においては、マニュアルや会議の議事録、研修記録などが整備されている。職員同士のコミュニケーションも良く、長く勤める職員が多いのも特長である。家族への情報提供の面では、毎月発行する「のりこハウス便り」と個別の手紙のほか、利用者の写真も送付している。ケアマネジメントの面では、フェイスシートに生活歴や趣味・嗜好などを丁寧に記載し、日々のケアに役立っている。介護計画見直し時はモニタリング表とアセスメント表をもとに会議で意見交換し計画を更新している。日々の記録にはサービス番号のほか職員の気づきや利用者の変化も記載している。医療や看取りの支援は、系列の診療所による訪問診療体制と事業所の看取りの体制が整っている。看取りを経験した職員が多く、ミーティングや勉強会でも看取りについて学んでいる。快適な環境と行き届いた支援のもと、安心して生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念、グループホーム理念を施設の見やすい場所に掲示している。また、ユニット会議の資料に理念をのせて、理念に立ち返って意見交換を行えるようにしている。今後は、ご家族様にも理解を深めていただけるようにお便りにも掲示していこうと考えています。	理念の中に「地域に役立つことを目指す」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を玄関やホールに掲示し、職員の名札の裏にも記載している。定例の会議でも理念を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在は地域との交流の機会が作れていない状況である。訪問診療や訪問歯科診療、訪問看護、調剤薬局など医療関係者との関りは継続できている。	感染症流行前は地域のボランティアや音楽療法の先生が事業所を訪れ、利用者と交流していた。感染症が落ち着いたら再開したいと考えている。今は散歩の際に住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、認知症カフェを中止しているなど、近隣地域の方々へ活かすことは行えていないが、高校、大学の実習生を受け入れ、認知症について伝えている。また、近隣のお店の方に家族等で認知症の症状のある方について相談を受けることがあるため、相談に対して対応することがある。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、今年度も系列事業所に参加をいただいて、事業所のみで開催となり、意見をいただいている。開催に当たり議題としてとりあげてほしいことがないか、ご家族にご意見を求めることを継続している。ご家族様、町内会長様、恵庭市介護福祉課にぎじろくを配布し、恵庭市介護福祉課には報告を行いご意見等をいただいている。	現在は2か月ごとの書面開催としている。市や地域包括支援センター、町内会長、民生委員、家族がメンバーとなっている。複数の議題を盛り込んでいるが、特定のテーマについて意見交換するまでには至っていない。議事録をメンバーに送付している。	報告事項の他に、特定のテーマを絞って参加者の意見を引き出す取り組みを期待したい。例えば議事録送付の際に次回のテーマと簡単な資料を添付してテーマに関する意見を募ることなどを検討されたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議が事業所のみで開催となっているため、事業所の状況について定期的な報告が運営推進会議の議事録を持参し説明を行っている。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策についての考え方などについては適宜連絡を行い相談を行っている。昨年度には実地指導もあり、運営について実情を説明している。	市には運営推進会議を報告したり、感染症対策について相談している。地域包括支援センターとは認知症カフェ再開の相談をしたり、新規利用者の受け入れについて情報交換をしている。	

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の人権を守るため、身体拘束を行わない支援に努めている。身体拘束等の適正化対策委員会を定期的に管理者ミーティングに於いて実施し、身体拘束をしないケアの実践として、勉強会や事例検討を定期的にユニット会議で実施している。日常では、不適切なケアとなっていないか、現在服用している薬を停めることはできないか等身体拘束とならないように取り組んでいる。	身体拘束を行っておらず、適正化委員会を年6回開催し、不適切な事例がないか確認している。身体拘束に関する勉強会を年5回開催し、その中で禁止の対象となる具体的な行為について学んでいる。玄関は利用者でも中から開けられる鍵であり、自由に出入りすることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を定期的に管理者ミーティングに於いて実施し、身体拘束と同様に勉強会や事例検討を定期的にユニット会議で実施している。コロナ禍により外部の研修会に参加することはなかったが、ユニット会議で行った内容に対して意識して仕事を行っている。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に成年後見制度について、ご家族様へ説明を行っている。令和4年度に成年後見制度についての研修会に参加し学ぶ機会を定期的にもつように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階でおおよその費用について、当施設でできること、意向に対してできないことについては代替案等を相談者と考えるようにしている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため施設見学が行えない状況の際にはパソコンにより施設内の写真を見ていただき、イメージができるようにしている。入居契約締結時には入居契約書、十よく事項説明書などを丁寧に説明を行っている。料金改定などの場合も文書を使用し説明を行い同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とのコミュニケーションの中で発する言葉や行動を職員で話し合い、ご本人の要望として反映させられるように努めている。また、ご家族様との電話や施設来設時には暮らしの状況等をお伝えするなど職員から率先してお話しすることや、ご家族様から得られた情報は施設の質の向上に繋がることをお伝えしている。外部の苦情相談機関もお伝えしている。	家族の来訪時などに意見や要望を聞き、得られた意見などを「相談・要望・苦情記録表」に記載して共有している。家族には、毎月発行する「のりこハウス便り」と個別の手紙、利用者の写真を提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や面談時に、管理者が職員からの意見を、管理者ミーティングにおいて代表に伝え、反省するための取り組みを行っている。	毎月ユニット会議があり、職員同士、活発に意見交換している。職員は管理者と年1回面談の機会があり、他にも何かあればいつでも相談することができる。身体拘束廃止、感染症、行事、訓練、備品管理などの業務を職員が分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、利用者満足度と同じように職員満足度を大切に考えていただけている。職場環境の整備や職員への声掛けを考えて対応してくださっている。給与のベースアップも継続して行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、個々の成長を見届けており、知識向上のための教育については、現在はコロナ禍のため自粛していることはあるが、協力的に機会を確保していただけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が研修会の講師を務めるなどもあり、同業者との交流等の繋がりもあったが、現在はコロナ禍のために機会がない状態である。恵庭市のグループホーム事業者によるグループホームネットワークの会があり、現在は集まる機会が持てないためにグループラインで情報交換を継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前にケアマネジャーやご家族からの情報を確認しつつ、可能な限り現在の住まい、暮らし方を確認させて頂いたり、どのような暮らしを望んでいるか、困っていることはないか等把握し、意向に対して提案をするなどの対応を行い、安心できる関係づくりに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に相談に来設された際に、現在どのような生活状況で、困っていることや希望、不安なことを確認している。これまでの介護に対してのご家族の気持ちを労い、施設の理念や行えること等を説明し、希望に添えるように提案やこれから協力しながら支えていくことを理解しあえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にケアマネジャーやご本人、ご家族から得られた情報から、医療、福祉用具、食事、排せつ等どのように対応するか、系列法人に相談するなどを行い、入居の段階からスムーズに進むように対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は、職員等に対して『面倒掛けて…』と話されることがありますが、入居者様にもできています。私たちも助けていただいていることをお伝えすることで関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お電話やお手紙で日々の状況をお伝えすることで、入居者様の状況や行動、症状などを共有し、意向の確認等を行っている。病院付き添い等ご家族様にご協力をいただけることをお願いし、ご家族様のご協力なしにはご本人の暮らしをささえられないこと、共に支えていると感じていただけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、面会ができていない状態である。そのため、電話でお話する機会を設けたり、ZOOMで顔を見てお話しする機会をご家族様に依頼をしている。病院受診等でご家族様と一緒に受診することは継続している。	3名ほどの利用者に友人や知人が来訪し、窓越しで会っている。感染症対策のため、行きつけの店などへの外出はまだ難しいが、市内の馴染みの公園に花見や紅葉狩りに出かけ、楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、座席遅配置を検討している。家事を行う際には入居者様同士で助け合いや、譲り合いを行っていることがある。レクリエーション等では普段関りのない入居者様の関係性が高められるよう座席を配置するなどを行っている。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了となった方の多くはお看取りにより退去された形となっている。その後のご家族の状況が気になる方に対して連絡をとり、ご家族様の認知症上の進行及び引きこもり傾向を感じたため、地域包括支援センターに繋げることがあった。また、ご家族の地のグループホームに転居することとなった方の転居先のグループホームの職員、ご家族様への情報提供、ご本人の状況等、移動中に考えられることなど、ご本人に不安を感じない、転居後も良い環境で暮らせるように取り組みを行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長年住み慣れた家、家族との別れを経験して入居されても、これまでの暮らし方が継続できるように、入居時の情報やご本人の発現、行動などから感じ取れるように取り組み、ご家族様のご協力をいただきながら可能な限りご本人の意向に沿った支援が行えるように対応している。	4割ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も表情やしぐさなどから把握している。フェイスシートに利用者の生活歴や趣味・嗜好などを記載し、日々のケアに役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況について、ご家族様や入居前に利用していた施設やケアマネジャーから情報を得るなどを行っている。また、可能であればご自宅の訪問を行い、生活していた環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や発言、表情、色々なアプローチを行い、楽しいと思えること、嫌がること、嬉しいこと、できること、できないことなどを把握し、ユニット会議や日々の業務の中で職員間で情報を共有し支援にあたっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とお話ししたり、発言や行動から確認したり、看護師、理学療法士、医師等の意見やアドバイスをいただき、ご家族様の意向も踏まえ、各担当職員がモニタリングを行う。その結果とアセスメントを基に仮のケアプランを使用しカンファレンスを行い介護計画を作成している。	介護計画を3か月ごとに見直している。見直し時はモニタリング表とアセスメント表を作成し、担当者会議での意見交換を経て、計画を更新している。日々の介護記録は、サービス番号を記載し、該当サービスに関する職員の気づきや利用者の変化も記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、ケアの実施により入居者様の反応、行動、発言等介護計画に沿って記録ができています。介護記録の情報がモニタリングに反映し、介護計画作成に活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面や暮らしの中の一人ひとりのニーズに対応するために、これまでの実績に捉われないように対応することに努めている。現在のコロナ禍に対応するために新たに口腔内の定期検診から感染症予防に取り掛かったこともひとつである。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域資源を活かした取り組みが行えない状態となっている。感染予防の協力をいただきながら、医療関係は継続して訪問により健康状態を管理して頂けており、協力歯科医療機関には、感染予防にも口腔内の健康維持は大切との指導をいただき、定期検診から早期治療に結び付けていただけている。また、高校や大学の実習生の受入れも感染予防を徹底した形で受け入れることにより、入居者様の楽しみとなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、これまでにかかっている医療機関の確認を行い、そのまま継続して受診をするか、契約している医療機関の訪問診療を受けるかの希望を確認し対応している。協力医療機関の訪問診療とこれまでの医療機関の受診の両方を希望されている入居者様と訪問診療のみ受診している方がいる。毎週訪問看護師が健康管理に来設し、訪問看護師から入居者様の情報を医師へ伝えられ、早期対応が可能となっている。また、協力歯科医療機関の歯科医により入居時に定期検診という形で診ていただき、治療が必要な場合はご家族様に治療内容を説明し了承を得られれば治療に当たっている。	全員が系列の診療所による月1～2回の訪問診療を受けている。その他の通院は家族対応を基本とし、必要に応じて事業所でも通院を支援している。受診内容を個別の受診記録に記載し、職員間で共有している。	

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	認知症の症状のある入居者はご自分の状態に対しての自覚症状がなかったり、訴えることが難しいため、介護スタッフの気づきが大切になる。気になることを訪問看護ステーションの看護師による週1回の健康チェックで来設した際に看護師に伝えることで、異常の早期発見、早期診断に結びついている。緊急時は24時間連絡体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際には、ご本人が安心して治療を受け、入院生活が不自由のないように医療機関に情報提供を行っている。また、ご本人、ご家族様の治療や退院後の意向を確認し、施設としての受入れにむけたりハビリ等を医療機関と相談・調整を密に連絡をとりながら早期退院に向けて連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化となった場合の意向を確認している。また、体調に変化が現れてくる段階ごとに意向を確認している。終末期を迎える段階では、主治医より医学的な説明を行い、ご本人様及びご家族様の意向を確認しながら、施設で行える対応について説明している。ご家族様、医師、訪問看護師と連携を図り支援にあたっている。	利用開始時に「医療連携、重度化(看取り)に関する指針」を家族に説明し、同意書を得ている。最近でも3～4名の看取りを行った。看取りを経験している職員が多く、ミーティングや勉強会でも看取りについて学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット会議時に喉詰まり時の対応について、防護具の脱着の手順について訓練を実施し、事故発生時に対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中想定と夜間想定で避難訓練を実施している。日中想定時に地震が発生し、その後火災が発生する想定で実施している。災害が発生した際に想定されるリスクに対する対応を検討している。コロナ禍で地域との協力体制が進んでいない。	年2回、消防署の指導のもと昼夜を想定した避難訓練を実施している。感染症収束後は地域住民の参加も得る予定である。災害時に必要な備品を準備している。救急救命訓練を実施し、地震等におけるケア場面別の対応も話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇は介護を行う際に最も大切なことと認識している。相手を敬う気持ちを持って、個人の意思を尊重した対応ができるように努めている。	利用者は「さん」づけで呼びかけている。管理者は、不適切な対応や声かけがあればその都度注意している。利用者に関する話は離れた場所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が思いや希望を表出しやすい雰囲気をつくることを大切にしたいと考えている。なかなか思っていることや希望を言いにくいと思っている入居者様の場合は表情などのご様子を汲み取って表出しやすいように支援をしている。意思表示のできない方の場合も自己決定が行えるようにまた、ご本人の気持ちになって考えるように支援を行っている。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同で生活する中でも個々の暮らしを大切にすることは、グループホームの理念に掲げている。その人らしい、その人の生活のペースで1日が遅れるように、その日の状態に合わせた対応を心掛け、職員の仕事を優先させないよう、実現できるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びをご自分で行える方にはお褒めの言葉をかけるようにしている。職員のお手伝いが必要になる方には、自己決定が行えるように個々に合わせた形で援助を行っている。ご本人らしいおしゃれとなるように、時にはご家族様に相談している。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にとって食事は楽しみであり、生きる意欲を引き出すことに大きな影響があるが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外食などの楽しみができない状況となっている。施設内で食事を楽めるように企画し、毎月仕出しや出前、ホットプレートで目の前で調理をすることをやっている。毎日のメニューは冷蔵庫にあるもので当日に入居者様に何を食べたいか確認して決めたり、当日準備ができない時は後日行うようにしている。また、調理の準備から後片付けなど食事にかかわることも関わっていただき、食事意欲に繋がるよう努めている。	旬の食材を取り入れ、職員が当日の献立を考えて調理している。出前で寿司や弁当を取ったり、利用者と一緒におはぎや餃子などを作っている。利用者は食材を切ったり盛り付けなども手伝っている。「お好み寿司」の行事を開催し、利用者が好きなネタを選んで職員が寿司を握るなど、楽しく食事ができるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の嗜好品や、嚥下状態を考慮し、食事内容や食事形態を合わせて提供している。食事量や水分量を観察し、美味しく召しあがれるように配慮して対応している。その他、サーバーを設置して、自由に飲むことができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者の個々の能力に応じ、歯磨きの見守りを行い、毎回仕上げ磨きをさせていただき、残渣物がないように援助を行っている。義歯の方も、義歯の状態を観察し異常がないか観察し、早期発見、早期治療が行えている。提携している歯科医院のご協力をいただき、定期検診を行い、歯科医からの指導を定期的にいただき、支援につなげている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレで行うことを目指して支援を行っている。排泄パターンを情報収集し、オムツの必要性等を実際に行い、その結果どうするべきかを職員で意見交換を行い、通常のパンツを着用するなどの対応を行っている。	自立している利用者も数名いるが、「介護記録」に排泄状況を記入して個々に応じた声かけや誘導を行っている。日中は全員が布下着を使用し、トイレで排泄できるように支援している。排泄状況に応じて排泄用品を使用したり、夜間のみベッド上で交換する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘とならないよう、乳製品や食物繊維を召し上がっていただいている。食事量や水分量を観察し、活動は行っているかを確認する。個々の排便状況は排便チェック表により把握し、状況により医師、訪問看護師に相談して便秘予防を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は基本的には設定しているが、ご本人の希望があれば希望に沿って対応している。集めのお湯が良い方、ぬるめが良い方、お一人で入りたい方などの対応は安全を考慮しながら支援を行っている。	毎日入浴が可能で、一人週2～3回の入浴を支援している。福祉用具を使い、全員が湯船に浸かっている。入浴剤や好みのシャンプーを使い、職員と話しをしながら入浴を楽しんでいる。入浴を拒む場合は声かけする人を交代したり、日にちを変えて入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や食事、排泄状況などを観察し、快適に過ごせるように援助を行い、精神面が安定し安眠に繋がれるように配慮している。眠れない時は寄り添って対応し、職員で共有し安眠できるように努めている。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報により目的や副作用、用法、用量などについて確認している。服用前には薬剤師より説明があり、注意点を教えていただいているので、どのような症状について観察すべきかが理解できており、職員間で共有できている。その状況により看護師や医師へ情報提供を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホームの理念でもある楽しみもある暮らしを実感できるように、入居者様の興味のあること、習慣にしていたことを把握し、家事や食事づくり、運動、趣味活動や食べ物の提供などを支援している。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出の機会は減少している。中でも近隣への散歩やお花見や紅葉狩りなど野外へのドライブを行っている。また、医療機関の定期受診等は感染対策を行い継続して援助を行っている。	普段は庭先で外気浴をしたり、車いすの利用者も一緒に近隣を散歩している。ベランダで作っている野菜を見ながら外気浴することもあった。恵庭の盤尻に花見や紅葉見学に出かけている。感染症収束後は、外出行事を増やしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居前に訪問介護を利用したり、ご家族様と一緒に必要な物を買に出かけていた入居者様はご自分でお金を所持しているが、コロナ禍のために買い物の支援が行えていない。必要な物はご家族様に依頼したり、スタッフが買い物をしてくるなどの対応となっている。今後の感染状況により、3密を回避できるような場所への買い物支援の検討を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状のやり取りが継続できるようにご家族様と協力して対応している方や、欲しいものがある時には直接入居者様から電話をかけていただくなどの援助を行っている。個人で携帯電話とタブレットを使用してテレビ電話を行ったり、ズームを使用して面会ができるように援助を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は入居者様と一緒に掃除を行い清潔にすることで不快感を感じないように配慮している。廊下には、人の気配を感じながらお一人になれる場所を設置してお好きな場所をみつけていただけるようにしている。季節感のある装飾と、温室計と肌で感じる室温により寒すぎず暑すぎないように配慮し、室内の明かりと窓からの日差しで心地よい空間づくりを心掛けている。	洗面室を中心に回廊式になっている造りで、ダイニングには大きな窓から明るい光が注いでいる。ホールも広く、観葉植物やテーブル、椅子などがいるような場所に置かれており、利用者が好きな所で居心地よく過ごせるようになっている。季節の装飾もさりげなく施されており、家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に、人の気配を感じながらお一人になれる、または気の合う入居者様同士でくつろげられたり、作業が行えるように、椅子やテーブル等を数か所に配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れている物や入居者様の好みの物、大切な物などを配置していただけるように、入居時及び必要時にお伝えしている。また、ご家族様の写真を飾るなど、安心して暮らせるように居心地の良い空間となるように配慮している。	居室により造りは違っているが、クローゼットとベッドが備え付けられている。タンスや机、椅子など使い慣れたものを持って来ている利用者もいる。家族の写真やカレンダー、自分の作品などを壁に飾り、その人らしい落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの動線や行動習慣などを考慮し、表示でわかりやすくしたり、物の置き方、配置を考えて設定し、室内の明るさにも配慮し、可能な限り自由に過ごせるように取り組んでいる。声をかけるタイミングなどにも配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム のりこハウス

作成日：令和 5年 3月 26日

市町村受理日：令和 5年 3月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	報告事項の他に、特定のテーマを絞って参加者の意見を引き出す取り組みを期待したい。例えば議事録送付の際に次回のテーマと簡単な資料を添付してテーマに関する意見を募ることなどを検討されたい。	施設の運営に関してのご意見を募り、施設の更なる質の向上が図れる体制づくりを実施する。	これまでも意見箱の設置などを行ってきたが、なかなかご意見を募ることが難しかった。特に、書面開催や、運営推進会議に参加していない場合でも、施設の実施していることをわかりやすくすることや、テーマに対するご意見を募りやすいような形をつくっていきけるように継続して実施していきます。	2年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。